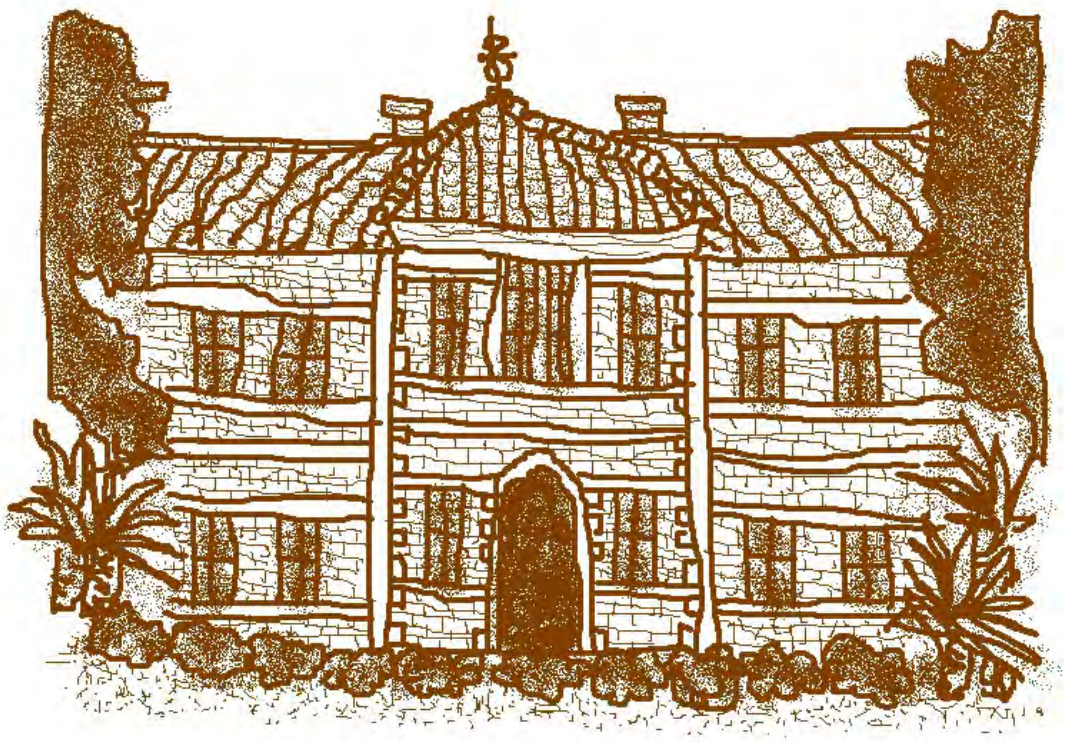
熊本大学保健センター年報

平成28年度

平成29年度



熊本大学　五高記念館

目　　次

巻頭言「熊本大学保健センターの現状と課題」
熊本大学保健センター長　藤瀬　昇…… 1
沿　革 …… 3
保健センターの主な業務内容 …… 5
保健センター関係職員 …… 6

Ⅰ．平成28年度
1)健康診断業務…… 7
2)感染予防対策 …… 11
3)日常受診業務（健康相談、応急処置等）…… 13
4)各種相談業務…… 13
5)産業医活動…… 15
6)その他…… 15
熊本大学保健センターだよりNo.44 …… 16
「保健センターのご紹介」熊本大学保健センター長　藤瀬昇 …… 16
「皆さんの視力は自分が思っている視力のままですか？」
熊本大学保健センター准教授　副島弘文 …… 18
「良いこともストレス？！」熊本大学保健センター臨床心理士　奥田清香…… 19

Ⅱ．平成29年度
1)健康診断業務…… 20
2)感染予防対策 …… 24
3)日常受診業務（健康相談、応急処置等）…… 26
4)各種相談業務…… 26
5)産業医活動…… 28
6)その他…… 28
熊本大学保健センターだよりNo.45…… 30
「５月病について」熊本大学保健センター長　藤瀬昇…… 30
「インフルエンザワクチンの予防接種について」熊本大学保健センター准教授　副島弘文 31
「こころの健康相談室より」熊本大学保健センター臨床心理士　髙橋直美…… 33

Ⅲ．保健センター業績
保健センター業績目録 平成28年度－29年度…… 34

…… 巻頭言 ……

「熊本大学保健センターの現状と課題」

熊本大学保健センター長　　藤瀬　昇

初めて巻頭言を書かせていただきます。保健センターに赴任したのが平成 28 年 5 月でしたので、早いもので 2 年余りが経ちました。地震の後におずおずと参ったわけですが、大変な時期を少ない人員で対応に当たられた副島先生はじめスタッフの皆さんは本当にお疲れ様でした。平成 29 年度からは産・育休を取得していたスタッフも無事復帰し、本来の人員体制が整いつつあります。震災の影響というのは様々なところに表れて来ますので、今後も注意深く見守っていく必要があると考えています。

1）保健センターの現状

保健センターの業務は言うまでもなく、熊本大学に所属する学生および教職員の健康支援です。その数約 15,000 人からなる一大事業体における健康支援の内容は多岐にわたっており、ざっと挙げるだけでも、学生の定期健康診断、RI 取扱い学生の健康診断、留学生の特別健康診断、体育会系学生の貧血検査及び特別健康診断、実習カリキュラムに参加する学生への感染対策、教職員へのインフルエンザ予防接種、健康診断証明書の発行などになります。身体面のケアについては、これまで長年にわたって構築されたしっかりとした体制が機能しています。一方、メンタル面のケアについても徐々に体制が構築されつつあると考えています。その内容としては、後述する３つの部署が役割分担しながら、それぞれ学生支援にあたっています。健康面では保健センター、修学に関しては（障がい）学生支援室、キャンパスライフ全般に関しては学生相談室が、それぞれの相談に対応しており、適宜、専門職（精神保健福祉士、臨床心理士、精神科医）が緊密に連携しています。例えば顕著なメンタルヘルス不調のために、一人暮らしのアパートへはとても帰せそうにない学生さんもたまにいて、学生支援室との連携で、近隣県の実家から保護者の方が迎えに来られるまでの間、保健センターで本人を見守るといったケースもありました。

保健センターに赴任してこの 2 年間で感じていることは、学生個々人の背景はそれぞれあるにしろ、メンタルヘルス不調の多くが「適応障害」という精神科診断に相当することです。 県外出身者が約 3 分の 2 を占め、親元を離れて初めての一人暮らしともなれば、生活全般のことが負担となってしまう学生さんも多いのでしょう。「適応障害」である以上、環境調整が必要であり、とくに修学場面においては学生と教員の双方への働きかけが望ましく、上記の通り、学生に対する支援体制は整いつつあるものの、教員への支援体制は乏しいのが現状です。FD などを通して学生対応等についての研修会を開催するのも１つですが、メンタルヘルス支援は往々にして個別性が高く、教員の先生方との face to face の個別相談も重要です。幸い熊本大学には、 学生相談室が窓口となっている「学生支援検討会」という取組みが以前からあります。すでに支援に入っている学生については本人の了承が原則となりますが、臨床心理士、精神科医が専門的な立場から相談に応じていますので、学生指導でお困りの教

員の方々には大いにご活用いただきたいと考えています。

教職員への健康支援としては主に産業医として関わっています。昨今の働き方改革の議論に代表されるように、熊本大学でも多くの職員さんが時間外勤務に従事しています。保健センター所属の3名の医師は、学内各事業場の産業医を兼任しており、労働安全衛生法に基づき、職場巡視を行ったり、長時間残業者の面談を行ったりしています。中にはバーンアウト寸前の職員さんもいて、学内における産業保健の充実は急務と考えられます。また、平成28年からストレスチェック制度の運用も始まっており、受検率は低いものの、面談を希望する教職員は徐々に増えつつあります。

2）保健センターの課題

現在、保健センターをはじめ学生を支援する部署は黒髪キャンパスに集中しており、それ以外のキャンパス、すなわち医学部（医学科、保健学科）と薬学部における学生支援体制は今後の大きな課題です。以前から、健康相談体制の充実に関する要望が学生側からあがっており、現在、医学科と保健学科のそれぞれに週の半分ずつ看護師を派遣し、薬学部にも週1回の看護師派遣、医学部と薬学部に週1回ずつ臨床心理士の派遣など行っていますが、現在の人員体制では全てのキャンパスをくまなくカバーすることは到底不可能であり、せめて各学部に1名ずつはキャンパスソーシャルワーカーが必要だと考えられます。

一方、熊本大学においても留学生の数は年々増えており、実習系学生と並んで留学生への感染対策は重要な課題です。また、留学生に対してはメンタルヘルス支援も課題の1つです。英語対応によるカウンセリングでの言葉の問題は大きく、全国的にも多くの大学が手探りで対応しているのが現状のようです。当センターでも地震後に留学生からの相談が多くあり、グローバル教育カレッジの先生方には随分お世話になりました。いずれにしろ私自身を含め心理支援職の英会話能力の向上は今後の大きな課題です。産業医に関しても、全ての事業場が兼任になっており、さらに大学全体でみても雇用している保健師が1名のみというのは何とも、熊本大学における現在の産業保健体制は心許ないと言わざるを得ません。

以上、保健センターの現状と課題について述べてみました。こちらに赴任してみて最初に驚いたのは専属の事務職員さんがいないことでした。その後、約2年間勤めてみてその理由は、保健センターに求められる機能が多岐にわたっているからだと分かりました。主な事務業務は学務（学生支援部）が担当してくれていますが、産業医に関する事務業務は労務が担当し、安全・衛生に関しては環境安全センターとも関わっています。今後、一層の連携強化あるいは効率化が求められるのであれば、保健センターにおいても専属の事務担当職員の配置が必要になってくるのかも知れません。引き続き、関係各所のご理解とご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

沿　　革

昭和48年 4月　熊本大学に保健管理センター設置
昭和49年 2月　熊本大学内科学第一教室より徳臣晴比古教授が所長就任
　　同教室より出田透助教授就任
昭和50年 4月　後藤峯子看護婦を配置
　　5月　保健管理センター新庁舎落成
　　8月　第5回九州地区大学保健管理研究協議会開催
昭和51年 4月　国立療養所豊福園より伊津野良治助手就任
　　藤瀬小枝子看護婦を配置
昭和52年 1月　伊津野良治助手の転出につき、水俣市立病院より津田富康講師就任
昭和53年 4月　津田富康講師の転出につき、附属病院より伊津野良治講師就任
昭和55年 4月　伊津野良治講師の転出につき、附属病院より岳中耐夫助手就任
昭和56年 4月　岳中耐夫助手の転出につき、附属病院より寺本仁郎助手就任
　　11月　徳臣晴比古教授退任につき、出田透教授就任
昭和57年 2月　出田透教授が所長に就任
　　4月　寺本仁郎助手の転出につき、附属病院より植川和利助手就任
　　6月　出田透所長昇進につき、倉元涼子助手就任
昭和59年 4月　植川和利助手の転出につき、附属病院より上野洋講師就任
昭和60年 4月　倉元涼子助手、講師昇進
　　上野洋講師の転出につき、附属病院より小川久雄助手就任
昭和61年 4月　小川久雄助手の転出につき、附属病院より松山公士助手就任
昭和62年 1月　第6回九州地区大学保健管理業務に従事する保健婦・看護婦研修会開催
　　4月　松山公士助手の転出につき、附属病院より藤井裕己助手就任
　　8月　第17回九州地区大学保健管理研究協議会開催
昭和63年 1月　第7回九州地区大学保健管理業務に従事する保健婦・看護婦研修会開催
　　9月　藤井裕己助手の転出につき、附属病院より森上靖洋助手就任
平成 2年 4月　森上靖洋助手の転出につき、附属病院より松山公三郎助手就任
　　6月　倉元涼子講師、助教授昇進
平成 5年 4月　後藤峯子看護婦退職につき、本田るみ子看護婦を配置
平成 6年 4月　松山公三郎助手の転出につき、附属病院より中尾浩一助手就任
平成 7年 4月　倉元涼子助教授の転出につき、附属病院より本田寿賀助手就任
　　9月　中尾浩一助手の留学につき、附属病院より平島修助手就任
平成 9年 4月　平島修助手の転出につき、天草地域医療センターより角田隆輔助手就任
　　藤瀬小枝子看護婦退職につき、田代邦子看護婦を配置
平成10年 4月　熊本大学健康管理システム運用開始
　　8月　第28回九州地区大学保健管理研究協議会開催
　　11月　第18回九州地区大学保健管理業務に従事する保健婦・看護婦研修会開催

平成11年 3月　学務情報システム運用開始
インターネット上での学生健康診断個人履歴票の閲覧及びＥメールによる健康診断書の受付開始
平成12年 4月　角田隆輔助手の転出につき、附属病院より副島弘文助手就任
各種証明書自動発行機での健康診断証明書発行開始
平成12年 6月　出田透所長退任につき、安藤正幸所長就任（併任）
平成12年11月　熊本大学代謝内科学教室より岸川秀樹教授就任
平成13年 4月　安藤正幸所長退任につき、岸川秀樹所長就任
本田寿賀助手の転出につき、附属病院より工藤（旧姓玉真）祐美助手就任
平成14年10月　臨床心理士（非常勤）原田則代を配置
平成14年11月　保健管理センター改修工事開始
平成14年10月　臨床心理士（非常勤）高岸幸弘を配置
平成15年 3月　保健管理センター竣工
平成16年 4月　「熊本大学保健センター」に施設名を変更
平成17年 4月　工藤祐美助手退職につき、附属病院より桂智子助手就任
平成18年12月　副島弘文助手、准教授に昇進
平成19年 7月　本荘地区に健康相談室設置、事務職1名（木下麻衣子看護師）配置
平成20年 3月　桂智子助手退職
平成21年 3月　菊池陽子助手就任
8月　第39回九州地区大学保健管理研究協議会開催
平成22年 4月　本荘地区健康相談室に看護職1名配置（事務職1名から変更）
平成23年 4月　相談員（非常勤）鈴木華子を配置
平成24年 3月　臨床心理士（非常勤）高岸幸弘、相談員（非常勤）鈴木華子退職
平成24年 4月　臨床心理士（非常勤）菅真理子を配置
大江地区健康相談室開設、保健センターから看護師を週半日配置
平成26年 3月　臨床心理士（非常勤）原田則代、菅真理子退職
平成26年 4月　臨床心理士（有期雇用職員フルタイム）髙橋直美を配置し、本荘大江地区での心理相談開始及び教育学部附属小中学校へスクールカウンセラーとして派遣
平成27年 5月　岸川秀樹教授（センター長）退職
平成27年 7月　副島弘文准教授、センター長に就任
平成28年 4月　熊本地震後、黒髪体育館避難所（熊本市）の救護対応にあたる
平成28年 5月　熊本大学医学部神経精神科より藤瀬昇教授就任
平成29年 1月　藤瀬昇教授保健センター長に就任

平成30年3月31日現在

保健センターの主な業務内容

１）健康診断業務　　学生定期健康診断
学生定期健康診断尿検査
学生定期健康診断精密検査
放射線取扱者（学生）の健康診断
５月以降入学学生の健康診断
体育会系学生貧血検査及び特別健康診断（希望クラブのみ）
健康診断証明書の発行

２）感染予防対策　　４種ウィルス（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）抗体検査及びワクチン接種の指導
結核に関する検査（胸部Ｘ線）
Ｂ型肝炎ワクチン接種
インフルエンザワクチン接種
感染対策証明書発行

３）日常受診業務（健康相談、応急処置等）

４）各種相談業務　　精神衛生相談（心とからだの悩みなんでも相談）
心理相談
教育学部附属小・中学校へのスクールカウンセラー派遣
特別健康相談（整形外科、婦人科）
性に関する相談

５）産業医活動

６）その他（講義・出版物・講演会等）

７）研究活動

保健センター関係職員（H30年3月1日現在）

保健センター職員	教授（センター長）	藤瀬　昇（精神科）
	准教授	副島　弘文（循環器内科）
	助　教	菊池　陽子（精神科）
	臨床心理士	高橋　直美
	看護師	田代　邦子
	看護師	木下　麻衣子　育休中
	看護師	本田　るみ子　育休代替
	看護師	小林　歩美（本荘九品寺健康相談室）
学　校　医	講　師	中村　英一（整形外科）
	特任助教	伊藤　史子　（婦人科）

保健センター運営委員会委員

保健センター	センター長	藤瀬　昇
教育学部	教　授	後藤　知巳
医学部附属病院	准教授	橋本　衛
人文社会科学研究部（文学系）	教　授	寺本　渉
人文社会科学研究部（法学系）	准教授	河野　憲一郎
先端科学研究部（理学系）	教　授	三沢　正史
先端科学研究部（工学系）	准教授	長谷川　麻子
生命科学研究部（医学系）	教　授	加藤　貴彦
生命科学研究部（薬学系）	准教授	猿渡　淳二
生命科学研究部（保健学系）	教　授	乾　誠治
保健センター	准教授	副島　弘文
保健センター	助　教	菊池　陽子
事 務	総務担当部長	本村　俊孝
事 務	学生支援部長	北村　敏夫

平成28年度

１．健康診断業務

１）平成 28 年度学生定期健康診断　学部・学年別受診率

区分		学生現員			内科受診						胸部Ｘ線撮影			平成27年	平成26年
					受診者			受診率			受診者			率	率
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	計	計
文学部	1年	80	209	289	33	134	167	41.3	64.1	57.8	51	157	208	74.6	68.6
	2年	50	125	175	19	47	66	38.0	37.6	37.7	0	0	0	27.5	48.0
	3年	51	143	194	5	12	17	9.8	8.4	8.8	0	1	1	33.3	52.5
	4年	68	148	216	8	38	46	11.8	25.7	21.3	2	5	7	66.8	78.5
小　計		249	625	874	65	231	296	26.1	37.0	33.9	53	163	216	53.8	63.2
教育学部	1年	169	216	385	130	179	309	76.9	82.9	80.3	141	189	330	84.2	86.4
	2年	141	175	316	100	147	247	70.9	84.0	78.2	132	157	289	95.0	92.3
	3年	130	164	294	103	135	238	79.2	82.3	81.0	116	141	257	86.5	91.1
	4年	148	198	346	89	158	247	60.1	79.8	71.4	97	161	258	84.6	84.1
小　計		588	753	1,341	422	619	1,041	71.8	82.2	77.6	486	648	1,134	87.2	88.3
法学部	1年	132	123	255	59	57	116	44.7	46.3	45.5	105	103	208	83.1	83.5
	2年	133	111	244	25	55	80	18.8	49.6	32.8	0	0	0	46.6	61.7
	3年	111	99	210	13	22	35	11.7	22.2	16.7	0	0	0	40.2	71.8
	4年	130	100	230	48	36	84	36.9	36.0	36.5	1	0	1	73.2	70.3
小　計		506	433	939	145	170	315	28.7	39.3	33.6	106	103	209	61.9	72.0
理学部	1年	157	67	224	91	46	137	58.0	68.7	61.2	140	52	192	85.3	94.5
	2年	165	51	216	67	22	89	40.6	43.1	41.2	0	0	0	40.3	49.8
	3年	133	43	176	39	11	50	29.3	25.6	28.4	8	2	10	48.2	65.2
	4年	155	62	217	72	41	113	46.5	66.1	52.1	35	6	41	77.7	75.1
小　計		610	223	833	269	120	389	44.1	53.8	46.7	183	60	243	63.8	70.9
医学部	1年	117	165	282	105	154	259	89.7	93.3	91.8	107	160	267	95.4	95.2
	2年	130	175	305	112	156	268	86.2	89.1	87.9	111	142	253	87.9	89.2
	3年	106	137	243	103	130	233	97.2	94.9	95.9	103	133	236	94.9	95.0
	4年	133	139	272	129	135	264	97.0	97.1	97.1	128	134	262	97.1	95.7
	5年	80	33	113	80	32	112	100.0	97.0	99.1	80	32	112	97.5	99.0
	6年	90	36	126	86	36	122	95.6	100.0	96.8	79	34	113	96.5	95.1
小　計		656	685	1,341	615	643	1,258	93.8	93.9	93.8	608	635	1,243	94.4	94.2
薬学部	1年	63	53	116	40	39	79	63.5	73.6	68.1	53	39	92	79.5	81.5
	2年	56	43	99	34	31	65	60.7	72.1	65.7	0	0	0	89.1	64.7
	3年	54	49	103	36	44	80	66.7	89.8	77.7	0	0	0	61.0	76.1
	4年	48	45	93	36	40	76	75.0	88.9	81.7	0	0	0	89.5	93.1
	5年	23	31	54	23	31	54	100.0	100.0	100.0	23	31	54	96.7	98.2
	6年	29	28	57	27	25	52	93.1	89.3	91.2	0	0	0	92.7	98.1
小　計		273	249	522	196	210	406	71.8	84.3	77.8	76	70	146	82.9	83.1
工学部	1年	462	110	572	289	89	378	62.6	80.9	66.1	415	102	517	93.0	89.3
	2年	447	86	533	145	44	189	32.4	51.2	35.5	0	0	0	60.8	80.6
	3年	508	99	607	146	27	173	28.7	27.3	28.5	40	5	45	60.8	66.7
	4年	626	93	719	232	57	289	37.1	61.3	40.2	11	0	11	71.2	72.2
小　計		2,043	388	2,431	812	217	1,029	39.8	55.9	42.3	466	107	573	71.5	76.9
教育学研究科		57	49	106	10	28	38	17.5	57.1	35.9	5	0	5	57.3	72.1
保健学教育部		46	52	98	20	14	34	43.5	26.9	34.7	20	14	34	42.6	48.2
自然科学研究科		1,052	206	1,258	515	122	637	49.0	59.2	50.6	53	21	74	73.8	80.0
グローバル教育カレッジ		1	4	5	1	4	5	100.0	100.0	100.0	1	3	4	85.7	33.3
社会文化科学研究科		141	176	317	5	21	26	3.6	11.9	8.2	3	14	17	20.3	27.5
医学教育部		270	135	405	62	34	96	23.0	25.2	23.7	58	26	84	28.0	35.6
薬学教育部		101	56	157	66	35	101	65.4	62.5	64.3	12	6	18	68.2	71.3
法曹養成研究科		38	15	53	1	1	2	2.6	6.7	3.8	0	0	0	14.3	23.6
養護教諭特別別科		1	39	40	1	38	39	100.0	97.4	97.5	1	38	39	95.5	100.0
特別支援教育特別専攻科		6	17	23	6	17	23	100.0	100.0	100.0	6	17	23	100.0	100.0
小　計		1,713	749	2,462	687	314	1,001	40.1	41.9	40.7	159	139	298	56.0	61.9
合　計		6,638	4,105	10,743	3,211	2,524	5,735	48.4	61.5	53.4	2,137	1,925	4,062	70.4	75.4
留学生		282	250	532	139	105	244	49.3	42.0	45.9	77	67	144	52.9	54.2

＊胸部Ｘ線撮影対象者は、「学部１年生」・「熊大入学初年度の学生」及び「本年度の病院実習予定者」・「本学附属学校園での教育実習予定者」

＊平成 28 年度は、熊本地震の発生により、4 月 12 日～14 日まで実施したところで中断、日程を組み直し、胸部Ｘ線撮影については 5 月 9 日～13 日、内科健診等については 8 月 29 日～9 月 8 日（土日除く）に実施した。そういった影響もあってか受診率は、前年度より 17%減の 53.4%だった。

2）平成 28 年度　学生定期健康診断　尿検査

実施者 区分	卒業予定者		1 年次生	
	受診者	異常者	受診者	異常者
文学部	64	1	193	16
教育学部	229	4	297	6
法学部	62	1	181	7
理学部	91	3	177	7
工学部	336	15	481	34
医学部	231	8	258	13
薬学部	70	1	90	3
小　計	1,083	33	1,677	86
教育学研究科	17	0	－	－
保健学教育部	14	0	－	－
自然科学研究科	299	6	－	－
グローバル教育カレッジ	0	0	－	－
社会文化科学研究科	3	0	－	－
医学教育部	9	1	－	－
薬学教育部	19	0	－	－
法曹養成研究科	1	0	－	－
養護教諭特別別科	0	0	－	－
特別支援教育特別専攻科	0	0	－	－
小　計	362	7	－	－
合　計	1,445	40	1,677	86

＊熊本地震の影響で、4 月に予定していた卒業予定者の検尿を、1 年次生と同様 5 月に実施した。

3）平成 28 年度　学生定期健康診断　精密検査

	該当者	欠席者	異常なし	放置可	経過観察	要精密	要治療	治療中	受診率
循環器	7	1	1	5	0	0	0	0	85.7%
貧血	12	5	6	0	1	0	0	0	58.3%
リンパ節	5	2	2	0	1	0	0	0	60.0%
甲状腺	17	3	6	2	3	3	0	0	82.4%
肥満（BMI 35以上）	14	9	1	0	3	1	0	0	35.7%
整形外科	0	－	－	－	－	－	－	－	－
婦人科	5	1	0	0	2	2	0	0	80.0%
胸部Ｘ線	13	1	3	2	6	0	1	0	92.3%
血液検査	32	16	11	0	3	2	0	0	50.0%
尿検査	121	36	67	0	1	17	0	0	70.2%
			(23)			(1)			
	226	74	97	9	20	25	1	0	67.3%

（　）は、本荘・九品寺・大江地区健康相談室での実施件数で、内数

＊熊本地震の影響で、定期健康診断が 4 月と 9 月に行われた為、精密検査も 2 回に分けて実施した。全体の受診率は、昨年度とほぼ同率だった。
＊胸部Ｘ線撮影で、気胸のため即日入院となった学生が 1 人いた。
＊胸部Ｘ線未受検者 1 名は、気胸の既往が複数回あり、有症状時に受診する旨連絡があった。

【血圧再検査】
収縮期血圧 140mmHg 以上、及び 80mmHg 未満、拡張期血圧 90mmHg 以上
該当者　305 人
受検者　 95 人（35 人）
指導を必要とした者　5 人（2 人）
（　）は、本荘・九品寺・大江地区健康相談室での実施件数で、内数
＊血圧再検査未受検者のうち収縮期血圧 160mmHg 以上、又は、拡張期血圧 95mmHg 以上の 25 人に対しては、11 月に封書で再度受検を促し、6 人が受検した。

4）平成 28 年度　放射線取扱者（学生）の健康診断

	4 月期	7 月期	10 月期	1 月期	計
教育学部	0	1	0	1	2
理学部	19	17	1	15	52
医学部医学科・医学教育部	9	16	2	15	42
医学部保健学科・保健学教育部	2	83	0	122	207
薬学部・薬学教育部	97	176	1	144	418
工学部	69	77	0	37	183
自然科学研究科	34	175	13	88	310
合　計	230	545	17	422	1,214

【注】①　対象学生

4 月期：新たに放射線を取り扱う学生

7 月期：平成 27 年度 1 月期及び 28 年度 4 月期に健康診断を受診した学生
並びに新たに放射線を取り扱う学生

10 月期：新たに放射線を取り扱う学生

1 月期：平成 28 年度 7 月期及び同年度 10 月期に健康診断を受診した学生
並びに新たに放射線を取り扱う学生

②　健康診断実施方法

放射線取扱者健康診断問診票による皮膚・眼及び被爆状況等の問診並びに血液検査

5）平成 28 年度　5 月以降入学学生の健康診断

11 月 24 日実施

検査項目	受検者数	異常あり	異常者の事後措置
	人	人	歯科口腔外科紹介 1 人 皮膚科紹介 1 人
身長･体重･血圧･内科	154	2	
			要精査 1 人→胸部ＣＴで異常なし
胸部 X 線撮影	153	1	
			再検査で異常なし 9 人 未受検 9 人
尿検査	146	18	

6）平成 28 年度　体育会系学生貧血検査及び特別健康診断（希望者）

貧血検査（血液一般・血清鉄）

受検者　9 人（全員異常なし）　10 月 19 日実施

特別健康診断（内科・検尿・心電図等）

陸上部　15 人　　5 月 31 日実施

空手部　 5 人　　6 月 1 日実施

陸上部　18 人　　11 月 7 日実施

7）平成 28 年度　健康診断証明書発行

	発行枚数
保健センター	
日本語	314 枚
英語	8 枚
証明書自動発行機	
日本語	1,498 枚
英語	42 枚
合　計	1,862 枚

2．感染予防対策

病院実習が必要な医学部医学科・保健学科、薬学部薬学科、教育学部養護教諭養成課程において、各施設より求められた基準に基づき感染予防対策を行っている。

1）4 種ウィルス（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査及びワクチン接種

抗体検査については、希望者（全学対象）に実施。費用は、自己負担

（5 月 17 日 456 人、11 月 8 日　32 人、その他医学部・薬学部主体で実施 587 人）

ワクチン接種については、各自病院で受けるように指導

2）結核に関する検査（胸部Ｘ線）

定期健康診断時の胸部Ｘ線受検を義務化

3）インフルエンザ予防接種

医学部医学科と保健学科が、学部主体でインフルエンザワクチン接種を行う際の準備と応援。教育学部は、学部（外注）にて実施

4）B型肝炎ワクチン接種

学部学科の依頼で実施。経費は、学部又は学生負担

対　象	区　分	実施者数	備　考
医学部	前採血(H28.5.20)	213	ワクチン接種を必要としないもの 17 名
医学科	1 回目(H28.6.20)	213	ワクチン外部接種 8 人
3 年･4 年	2 回目(H28.7.21)	213	
	3 回目(H28.11.21)	213	
	後採血(H29.1.17)	200	184 名に抗体（＋）
医学部	前採血(H28.4.12)	146	ワクチン接種を必要としないもの 2 名
保健学科	1 回目(H28.5.10)	144	
看護 1 年	2 回目(H28.6.7)	144	
検査 3 年	3 回目(H28.10.25)	143	1 名未接種
放射 3 年	後採血(H28.12.7)	143	136 名に抗体（＋）
教育学部	前採血(H28.5.18)	32	ワクチン接種を必要としないもの 0 名
養教 1 年	1 回目(H28.6.13)	32	
	2 回目(H28.7.11)	32	
	3 回目(H28.12.5)	32	
	後採血(H29.1.16)	32	30 名に抗体（＋）
薬学部	前採血(H28.5.17)	61	ワクチン接種を必要としないもの 1 名
薬学科 4 年	1 回目(H28.12.20)	60	
	2 回目(H29.1.24)	60	
	3 回目(H29.5.9 予定)		

注：前採血　GOT・GPT・HBs 抗原・HBs 抗体
　　後採血　HBs 抗体（定量）

5）1）～4）の指導

医学部１，２，３，４年ガイダンス時にオリエンテーション実施
入学者への感染対策内容を個別指導
対象者全員が対策完了するまで、継続的な個別指導
感染対策フローチャートの見直し

6）データ管理と感染対策証明書発行

全学の感染対策データを保健センター内サーバにて管理
平成 28 年度　感染対策証明書発行枚数　2,601 枚

３．日常受診業務（健康相談・応急処置等）

平成 28 年度　日常受診一覧

学生区分は、留学生を優先して集計

本荘・九品寺・大江地区健康相談室には、看護師が在室し、本荘（木・金曜）、九品寺（月・火・水曜）、大江（火曜午後）に開室

区分	キャンパス	内科	創傷	外傷	整形	耳鼻	皮膚	婦人	眼科	歯科	検査	その他	合計
学部生	黒髪	1,111	162	132	55	28	133	42	45	20	48	312	2,088
	本荘	27	3		9		2	1			24	374	440
	九品寺	38	3		3	1	6	4	1		21	21	98
	大江	4									10	24	38
大学院生	黒髪	258	22	10	35	9	31	9	17	10	9	47	457
	本荘										1		1
	九品寺												0
	大江											1	1
留学生	黒髪	168	19	10	26	9	27	4	17	12	7	9	308
	本荘	1											1
	九品寺												0
	大江												0
職員他	黒髪	295	18	22	24	7	29	7	8	5	4	131	550
	本荘	4			1		1						6
	九品寺	2			1								3
	大江												0
小計	黒髪	1,832	221	174	140	53	220	62	87	47	68	499	3,403
	本荘	32	3		10		3	1			25	374	448
	九品寺	40	3		4	1	6	4	1		21	21	101
	大江	4									10	25	39
合計		1,908	227	174	154	54	229	67	88	47	124	919	3,991

４．各種相談業務

１）平成 28 年度　精神衛生相談（心とからだの悩みなんでも相談）精神科医師が担当

担当：藤瀬昇医師（5 月～3 月）及び菊池医師の産休代替として、平原信雄医師（月 2 回各 4 時間）、渡邉亜紀医師（月 4 回各 4 時間）

	延べ数			実　数		
	男	女	計	男	女	計
学部生	254(54)	270(61)	524(115)	55(15)	60(14)	115(29)
院生	41(7)	52(6)	93(13)	11(3)	8(2)	19(5)
留学生	51(3)	20(3)	71(6)	11(1)	6(1)	17(2)
職員	37(2)	76(7)	113(9)	14(2)	19(2)	33(4)
合計	383(66)	418(77)	801(143)	91(21)	93(19)	184(40)

（　）は、平原医師と渡邉医師の合計数で内数

＊留学生のうち、5 人（延べ 8 回）については、グローバル教育カレッジ教員に通訳を依頼した。

2）平成 28 年度　学生心理相談　臨床心理士が担当

担当：奥田清香臨床心理士

医学部は、医学部医学科健康相談室にて、月 2 回各 4 時間開室

薬学部は、薬学部リエゾンオフィスにて、月 2 回各 3 時間開室

		延べ数			実数		
		男	女	計	男	女	計
保健センター（黒髪）	学部生	132	382	514	32	61	93
	院生	49	35	84	8	5	13
	留学生	12	0	12	6	0	6
	職員	5	33	38	3	5	8
医学部	学部生	1	4	5	1	2(3)	3(3)
	院生	0	10	10	0	1(3)	1(3)
	留学生	0	0	0	0	0	0
	職員	0	12	12	0	1	1
薬学部	学部生	1	5	6	1	1(4)	2(4)
	院生	0	3	3	0	1(2)	1(2)
	留学生	0	0	0	0	0	0
	職員	0	3	3	0	1	1
	合計	200	487	687	51	78(85)	129(134)

（　）は、保健センターに来談した人も含めた人数

その他：平成 28 年 9 月～留学生の英語でのカウンセリングを教育学部准教授高岸幸弘先生（臨床心理士）に 3 人（延べ 9 回）依頼した。

3）平成 28 年度　教育学部附属小・中学校へのスクールカウンセラー派遣

担当：井上寛子臨床心理士（学生支援室）月 3 回各 3 時間

		延べ数			実数		
		男	女	計	男	女	計
附属小・中学校	小学生	3	0	3	2	0	2
	中学生	3	17	20	3	5	8
	保護者	3	10	13	2	5	7
	職員	0	0	0	0	0	0
	合計	9	27	36	7	10	17

4）平成 28 年度　特別健康相談

担当：学校医（整形外科：中村英一医師、婦人科：本原剛志医師）

各学校医に年 6 回各 2 時間

	学　生	職　員	合　計
整形外科	6 人	12 人	18 人
婦人科	12 人	0 人	12 人

5）平成 28 年度　性に関する相談

担当：看護師・・・・延べ数合計　5 人

５．産業医活動

藤瀬医師と副島医師が黒髪事業場を担当

主な産業医活動

衛生管理者と共に職場巡視を行い作業環境改善のなどのための助言指導（各 12 回/年）
担当事業所安全衛生委員会に出席・助言指導
職場健診の判定、放射線取扱者に対する被爆判定・指導
特殊健診（有機物など有害物質取扱者）の判定、特定業務健診（有害業務従事者）の判定
救急蘇生・ＡＥＤ講習会　講師：副島医師（各事業所にて、計５回開催）
産業医面接・健康相談（下表の通り）

（延べ人数）

	担当医	黒髪	京町	本荘･大江	附属病院
長時間労働者面接指導（フォロー面接を含む）	藤瀬医師	0	0	0	0
	副島医師	37	0	0	0
職場復帰支援等に関する産業医面接(関係者打合せ･就業に関する相談を含む)	藤瀬医師	10	0	1	0
	副島医師	19	0	8	0
健康相談	藤瀬･副島医師	0	0	0	0
合　計		66	0	9	0

６．その他

１）講義：教養教育（ベーシック）、医学教育部（修士・博士）分担講義
２）出版物：熊本大学保健センターだより（年１回発行）平成 29 年 3 月発行
熊本大学保健センター年報（平成２６・２７年度分）平成 28 年 7 月発行
３）学内講演会・研修会　講師派遣
理学部新入生ガイダンスにおける講話（4/5）副島医師
４）学生相談室・学生支援検討会との連携
合同ミーティング　月１回１時間　藤瀬医師・奥田臨床心理士参加
学生支援検討会アドバイザー（6/23）藤瀬医師・副島医師
合理的配慮検討会アドバイザー（12/19）藤瀬医師
ソーシャルスキルトレーニング（学生支援室主催計 6 回に参加協力　奥田臨床心理士）
５）熊本地震後、黒髪体育館避難所の救護対応（4/14～5/5 外部含め計 80 人）と学内メンタルヘルス相談窓口の周知及び対応
６）震災後の学生状況把握に向けたアンケート実施（7/22～10/31　1,185 人から回答あり、うちメンタル不調が疑われる学生及び相談希望学生 45 人へ個別に連絡→16 人来談あり）
７）大学祭及び入試時の救護対応
８）職員に対するインフルエンザワクチン接種
労務課の依頼で、実施。ワクチン代は、自己負担
11 月 30 日、12 月 12 日、12 月 13 日 合計 1,148 人

44号　平成29年3月31日発行

・Kumamoto University Health Care Center・



熊本大学 保健センターだより

保健センターのホームページ　http://hcc.kumamoto-u.ac.jp/
保健センターへの直通電話　　096-342-2164
健康相談室 096-373-5004（月～水：保健学科/木～金：医学科）096-371-4753（火曜 PM：薬学部）

保健センターのご紹介

保健センター長　藤瀬昇

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、在学生の皆さんも新たな気持ちでこの春を迎えていることと思います。この季節、五月病という言葉があるように、環境の変化に伴いさまざまな心身の不調をきたしやすいものです。とくに新入生の皆さんにとっては初めての一人暮らしという人も多いと思われます。これまでは当然のことのように出来ていたことが、意外に大変だったりすることに気付くかも知れません。ときには夜更かしをすることもあるでしょう。ただし、連日の夜更かしは禁物です。睡眠リズムの乱れが原因で心身の不調をきたすことがよくあるからです。せっかくのキャンパスライフ、健康を害してしまっては元も子もありません。その点、熊本大学には皆さんが通った高校等にもあった保健室のような施設があります。それが保健センターです。医師や看護師、臨床心理士が常駐し、高校までの保健室よりも設備が充実しています。どうぞ、心身の不調を少しでも感じたら遠慮なく保健センターを利用してください。以下に保健センターの業務内容を簡単に紹介します。詳しくはホームページ（http://hcc.kumamoto-u.ac.jp/）をご覧ください。不調を感じていなくても、健康チェックのためのさまざまな機器も取り揃えていますので、気軽に訪ねて来てください。

保健センターについて

1万人超の学生と4千人超の職員の福利厚生のための施設です。

1）位置
黒髪北キャンパスの赤門と附属図書館の間にひっそりと建っています。自動ドアを入るとすぐに受付があり、スタッフが常時対応しています。

2）日常の診療
前述のように、医師（内科医、精神科医）、看護師、臨床心理士が常駐し、小中学校や高校時の保健室よりも格段に充実した設備で、投薬も含め皆さんの健康問題に対応しています。学生番号や

職員番号が分かれば、健康保険証は必要なく、料金も発生しません。ただし、あらゆる病気に対応するのは難しいので、専門的な診療や精密検査などが必要な場合は、外部の医療機関を紹介しています。

3) 健康診断

学生定期健康診断は、法律及び熊本大学学則に基づき、4 月に一般健康診断（身長、体重、血圧、内科診察、一部の学年で胸部レントゲン検査や検尿）及び 5、6 月に精密検査（心臓などの精密検査や一般健康診断で要精査となった学生の二次検診）を行っています。5 月以降入学者の健康診断は 11 月に行っています。定期健康診断未受診者には、就職や各種奨学金出願のための健康診断証明書の発行が出来ませんので、毎年必ず受診して下さい。また、放射線を取り扱う一部の学部学生と大学院生を対象とした検診を 4 月、7 月、10 月、1 月に行っています。

4) 相談業務

健康相談、心理・精神衛生相談、ハラスメント相談、性に関する相談など、精神科医、内科医、看護師、臨床心理士が多様な相談に対応しています。相談に際しては、プライバシーに十分配慮していますので、安心して相談してください。一人で抱え込むより何か解決の糸口が見つかるかも知れません。

5) 各種測定機器

デジタル身長・体重計、血圧計、体脂肪計、視力計測機器（ゲーム感覚で操作出来ます。）などを設置しています。学生及び職員は無料で利用できます。どうぞ自身の健康管理に役立ててください。

6) 疲労度テスト

学生定期健康診断の際に、心身の健康度を把握するために学生全員に毎年実施している簡単なマークシート形式のアンケートです。心理相談希望者や疲労度の高い方には後日、郵送により連絡をする場合があります。これをきっかけに豊かなキャンパスライフのお手伝いが出来たケースもあります。

以上、熊本大学保健センターの業務について簡単にご紹介しました。今年度も学生及び職員の皆さんの健康増進に寄与できるよう活動していきたいと思います。

【各地区健康相談などの利用案内】

場所	時間帯	連絡先
保健センター	平日 8:30～17:15	096-342-2164
九品寺地区健康相談室（保健学科教務隣）	月・火・水 9:00～16:00	096-373-5004
本荘地区健康相談室（医学教育図書棟 4F）	木・金 9:00～16:00	096-373-5004
本荘地区こころの健康相談室（医学教育図書棟 4F）	第 1・3 水曜午後 予約制	096-342-2164
大江地区健康相談室（薬学部育薬ﾌﾛﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ内）	毎週火曜 13:00～17:00	内線 4753 096-342-2164
大江地区こころの健康相談室（薬学部ﾘｴｿﾞﾝｵﾌｨｽ）	第 2 木曜・第 4 水曜午後 予約制	096-342-2164

皆さんの視力は自分が思っている視力のままですか？

～保健センターに自動視力計あります～

保健センター准教授　副島弘文

新入学の皆さん、入学おめでとうございます。

勉強尽くめで参考書やノートばっかり見ていたひとも、スマホやゲームに没頭していたひとも、新年度を迎えるこの機会に、自分の目のことに関心を向けてみましょう。

保健センターには自動視力計がおいてあります。少し古い機器ではありますが、機械のレンズ部を覗くと小学校保健室の視力検査でよく見ていたランドルト環が映し出されます。それを見てレバーを切れ目のある側へ倒すだけです。わからないときは勘でレバーを倒さずレバーの手前にある“？”ボタンを押してください。右眼、左眼、両眼の視力が 1～2 分でだれでも簡単に測定できます。

50cm の近距離視力と 5m の遠距離視力が測定可能です。小学校から高校では黒板が見えるかが重要ですので遠距離視力がより重要視されます。パソコン作業が主になると近距離視力の方がより重要になるでしょう。近距離視力は 0.5 以上ないとパソコン業務はつらくなりやすいようです。大学生になって勉強がはかどらないとかパソコン作業時に眼が疲れやすいひとは一度検査してみてはいかがでしょうか？

視力低下の原因としては、屈折異常（近視、乱視、遠視）が最も考えられます。遺伝的な影響も考えられますが、多くの場合生活習慣が関与しています。テレビを近くで見る、長時間のパソコン、ゲーム、スマホの使用などは、眼に負担をかけるといわれています。片ひじをついて読書をしたり、寝転んでテレビを見たりすると、左右の眼と見ているものとの距離に差が生じ、視力に左右差が現れやすくなるようです。また、視力のよい側だけを使い続けていくと、視力低下が進行するとされています。

視力検査では、両眼で見ている時にわからなかった片眼の視力の急激な低下を見つけることもあります。若い人にも屈折異常以外の原因が隠れている場合もありますので、急激な視力の低下を確認したら、保健センター窓口に声をかけてください。必要があれば眼科を紹介します。

何かを見続ける場合には1時間につき10分程度は眼を閉じたり遠くを見たりして眼を休ませましょう。その時に立ち上がって伸びをしたり、屈伸をしたりして体をほぐすとさらに良いです。一生お世話になっていく眼ですので時にはケアしてあげましょう。



保健センター身体計測コーナーにあります。平日 8:30～17:15 に利用できます！

「良いこと」もストレス？！

保健センター臨床心理士　　奥田清香

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

受験勉強が終わりほっとしたのも束の間、新たな生活が始まりますね。高校時代とは異なる授業の雰囲気、研究、サークル、バイト、ひとり暮らしなど多くの初体験をしていくことでしょう。そのことにワクワクドキドキする人もいれば、不安でいっぱいという人もいるかもしれません。

大学入学を期に親元を離れる方にとっては、干渉されることのない自由気ままな生活が待っています。それと同時に、各種手続きや授業の取り方、金銭管理など今まで保護者や学校の先生にしてもらっていたことを皆さん自身でやっていくことになります。健康管理もそのひとつです。保護者の目が届かない分、皆さん自身で自分の体調やこころの変化にアンテナを張りましょう。

『ストレス』という言葉は、もともとは専門用語だったのですが生活の中でごく自然に使われるようになりました。普段、私たちはつらいことや嫌なことを『ストレス』と言っていますが、進学や結婚、昇進といった喜ばしいことも『ストレス』になりうることはあまり知られていないようです。「大学生活は楽しいけど何だか調子が悪い」というときも、実は新しい環境に適応しようと身体とこころが頑張った分の疲れが出ているのかもしれません。

頭やこころでは「平気」と思っていても身体はストレスに気づいて、なにかしらのサインを出していることがあります。なんだかいつもと違うな？と感じたら、それは身体からの SOS かもしれません。そんな時は、①疲れを癒す。②よく遊び、よく学ぶ。それでもだめなら③誰かに相談してみましょう！

今の自分には何が必要なのか、どこに行けばそれが得られるのかを把握し、きちんと助けを求めることは、これから社会を生きていくうえで重要なスキルです。保健センターでは心身の健康に関する相談を受けつけていますので、気軽に利用してくださいね。

また、『大学生のためのソーシャルスキルトレーニング（SST）』を学生支援室と協力して行っています。少人数のグループで、コミュニケーションについて学んだり練習したりするものです。興味のある方はぜひお問い合わせください。

保健センターは黒髪キャンパスにあります。また薬学部の大江キャンパスと医学部の本荘キャンパスでも相談を受けられます。ご予約の上、利用してください。

＊予約受付電話番号 096-342-2164
利用時間　平日 8:30～17:15



平成29年度

１．健康診断業務

１）平成 29 年度学生定期健康診断　学部・学年別受診率

区分		学生現員			内科受診						胸部X線撮影			平成28年	平成27年	平成26年
					受診者			受診率			受診者			率	率	率
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	計	計	計
文学部	1年	93	189	282	68	160	228	73.1	84.7	80.9	67	150	217	57.8	74.6	68.6
	2年	48	133	181	6	63	69	12.5	47.4	38.1	0	0	0	37.7	27.5	48.0
	3年	57	129	186	19	68	87	33.3	52.7	46.8	1	0	1	8.8	33.3	52.5
	4年	66	151	217	30	103	133	45.5	68.2	61.3	9	18	27	21.3	66.8	78.5
小　計		264	602	866	123	394	517	46.6	65.5	59.7	77	168	245	33.9	53.8	63.2
教育学部	1年	132	211	343	106	180	286	80.3	85.3	83.4	105	173	278	80.3	84.2	86.4
	2年	149	174	323	120	160	280	80.5	92.0	86.7	125	156	281	78.2	95.0	92.3
	3年	139	172	311	115	143	258	82.7	83.1	83.0	115	143	258	81.0	86.5	91.1
	4年	153	178	331	108	151	259	70.6	84.8	78.3	106	149	255	71.4	84.6	84.1
小　計		573	735	1,308	449	634	1,083	78.4	86.3	82.8	451	621	1,072	77.6	87.2	88.3
法学部	1年	111	138	249	104	124	228	93.7	89.9	91.6	99	122	221	45.5	83.1	83.5
	2年	135	101	236	76	57	133	56.3	56.4	56.4	1	0	1	32.8	46.6	61.7
	3年	115	106	221	36	74	110	31.3	69.8	49.8	0	0	0	16.7	40.2	71.8
	4年	125	104	229	93	82	175	74.4	78.9	76.4	1	3	4	36.5	73.2	70.3
小　計		486	449	935	309	337	646	63.6	75.1	69.1	101	125	226	33.6	61.9	72.0
理学部	1年	153	61	214	145	57	202	94.8	93.4	94.4	145	56	201	61.2	85.3	94.5
	2年	158	54	212	72	23	95	45.6	42.6	44.8	0	0	0	41.2	40.3	49.8
	3年	151	48	199	62	30	92	41.1	62.5	46.2	0	0	0	28.4	48.2	65.2
	4年	145	47	192	116	41	157	80.0	87.2	81.8	34	11	45	52.1	77.7	75.1
小　計		607	210	817	395	151	546	65.1	71.9	66.8	179	67	246	46.7	63.8	70.9
医学部	1年	119	153	272	108	152	260	90.8	99.4	95.6	108	152	260	91.8	95.4	95.2
	2年	111	171	282	105	152	257	94.6	88.9	91.1	104	160	264	87.9	87.9	89.2
	3年	121	162	283	119	159	278	98.4	98.2	98.2	120	160	280	95.9	94.9	95.0
	4年	119	143	262	112	139	251	94.1	97.2	95.8	112	139	251	97.1	97.1	95.7
	5年	86	32	118	86	31	117	100.0	96.9	99.2	86	31	117	99.1	97.5	99.0
	6年	84	33	117	80	33	113	95.2	100.0	96.6	79	32	111	96.8	96.5	95.1
小　計		640	694	1,334	610	666	1,276	95.3	96.0	95.7	609	674	1,283	93.8	94.4	94.2
薬学部	1年	57	67	124	43	52	95	75.4	77.6	76.6	44	51	95	68.1	79.5	81.5
	2年	56	41	97	26	33	59	46.4	80.5	60.8	0	0	0	65.7	89.1	64.7
	3年	57	42	99	32	35	67	56.1	83.3	67.7	0	0	0	77.7	61.0	76.1
	4年	48	49	97	41	45	86	85.4	91.8	88.7	0	0	0	81.7	89.5	93.1
	5年	24	30	54	23	28	51	95.8	93.3	94.4	23	28	51	100.0	96.7	98.2
	6年	27	33	60	23	30	53	85.2	90.9	88.3	0	0	0	91.2	92.7	98.1
小　計		269	262	531	188	223	411	69.9	85.1	77.4	67	79	146	77.8	82.9	83.1
工学部	1年	455	127	582	411	117	528	90.3	92.1	90.7	360	117	477	66.1	93.0	89.3
	2年	437	96	533	223	73	296	51.0	76.0	55.5	1	1	2	35.5	60.8	80.6
	3年	487	91	578	261	51	312	53.6	56.0	54.0	38	3	41	28.5	60.8	66.7
	4年	645	106	751	432	89	521	67.0	84.0	69.4	7	2	9	40.2	71.2	72.2
小　計		2,024	420	2,444	1,327	330	1,657	65.6	78.6	67.8	406	123	529	42.3	71.5	76.9
教育学研究科		51	52	103	30	34	64	58.8	65.4	62.1	14	11	25	35.9	57.3	72.1
保健学教育部		43	52	95	20	19	39	46.5	36.5	41.1	17	18	35	34.7	42.6	48.2
自然科学研究科		997	211	1,208	629	141	770	63.1	66.8	63.7	74	36	110	50.6	73.8	80.0
グローバル教育カレッジ		2	0	2	2	0	2	100.0	0.0	100.0	2	0	2	100.0	85.7	33.3
社会文化科学研究科		145	216	361	18	35	53	12.4	16.2	14.7	4	13	17	8.2	20.3	27.5
医学教育部		277	137	414	69	49	118	24.9	35.8	28.5	57	38	95	23.7	28.0	35.6
薬学教育部		93	52	145	58	33	91	62.4	63.5	62.8	9	5	14	64.3	68.2	71.3
法曹養成研究科		26	10	36	2	1	3	7.7	10.0	8.3	0	0	0	3.8	14.3	23.6
養護教諭特別別科		1	41	42	1	41	42	100.0	100.0	100.0	1	41	42	97.5	95.5	100.0
特別支援教育特別専攻科		8	10	18	8	10	18	100.0	100.0	100.0	8	10	18	100.0	100.0	100.0
小　計		1,643	781	2,424	837	363	1,200	50.9	46.5	49.5	186	172	358	40.7	56.0	61.9
合　計		6,506	4,153	10,659	4,238	3,098	7,336	65.1	74.6	68.8	2,076	2,029	4,105	53.4	70.4	75.4
留学生		286	268	554	157	140	297	54.9	52.2	53.6	93	93	186	45.9	52.9	54.2

＊胸部Ｘ線撮影対象者は、「学部１年生」・「熊大入学初年度の学生」及び「本年度の病院実習予定者」・「本学附属学校園での教育実習予定者」

＊集計の留学生は、内数

＊平成 29 年度の内科受診率は 68.8%で、熊本地震の影響で落ち込んだ前年度より増加したものの、地震前の 70%台には至っていない。胸部Ｘ線撮影対象になっていない学部学年で、低い傾向がある。

2）平成 29 年度　学生定期健康診断　尿検査

実施者 区分	卒業予定者		1 年次生	
	受診者	異常者	受診者	異常者
文学部	99	7	184	8
教育学部	223	18	264	10
法学部	133	8	176	7
理学部	136	4	145	5
工学部	483	19	426	23
医学部	242	8	234	10
薬学部	71	2	80	1
小　計	1,387	66	1,509	64
教育学研究科	25	1	－	－
保健学教育部	16	0	－	－
自然科学研究科	380	8	－	－
グローバル教育カレッジ	0	0	－	－
社会文化科学研究科	15	1	－	－
医学教育部	24	2	－	－
薬学教育部	18	0	－	－
法曹養成研究科	3	0	－	－
養護教諭特別別科	0	0	－	－
特別支援教育特別専攻科	0	0	－	－
小　計	481	12	－	－
合　計	1,868	78	1,509	64

3）平成 29 年度　学生定期健康診断　精密検査

	該当者	欠席者	異常なし	放置可	経過観察	要精密	要治療	治療中	受診率
循環器	22	7	2	5	8	0	0	0	68.2%
貧血	7	1	2	2	2	0	0	0	85.7%
リンパ節	6	1	2	0	2	1	0	0	83.3%
甲状腺	20	6	5	2	7	0	0	0	70.0%
肥満（BMI 35以上）	26	13	1	0	7	5	0	0	50.0%
その他の内科	3	0	0	0	1	2	0	0	100.0%
整形外科	0	－	－	－	－	－	－	－	－
婦人科	6	2	0	0	2	2	0	0	66.7%
胸部Ｘ線	6	0	2	4	0	0	0	0	100.0%
血液検査	39	20	6	0	8	5	0	0	48.7%
尿検査	142	52	73		6	7		4	63.4%
			(7)					(1)	
	277	102	93	13	43	22	0	4	63.2%

（　）は、本荘・九品寺・大江地区健康相談室での実施件数で、内数

＊その他の内科 3 名は、後頚部瘤、やせ・食欲低下、頭痛・吐き気だった。
＊要精密となった学生の中で、結核や悪性疾患はいなかった。

【血圧再検査】
収縮期血圧 140mmHg 以上、及び 80mmHg 未満、拡張期血圧 90mmHg 以上
該当者　526 人
受検者　112 人（46 人）
指導を必要とした者　2 人（1 人）
（　）は、本荘・九品寺・大江地区健康相談室での実施件数で、内数
＊血圧再検査未受検者のうち収縮期血圧 160mmHg 以上、又は、拡張期血圧 95mmHg 以上の 63 人に対しては、10 月に封書で再度受検を促し、30 人が受検した。

4）平成 29 年度　放射線取扱者（学生）の健康診断

担当：副島医師

	4 月期	7 月期	10 月期	1 月期	計
教育学部	0	1	0	0	1
理学部	26	21	5	22	74
医学部医学科・医学教育部	5	13	4	7	29
医学部保健学科・保健学教育部	1	92	1	133	227
薬学部・薬学教育部	101	163	2	156	422
工学部	86	77	14	65	242
自然科学研究科	61	152	14	97	324
合　計	280	519	40	480	1,319

【注】①　対象学生

4 月期：新たに放射線を取り扱う学生

7 月期：平成 28 年度 1 月期及び 29 年度 4 月期に健康診断を受診した学生
並びに新たに放射線を取り扱う学生

10 月期：新たに放射線を取り扱う学生

1 月期：平成 29 年度 7 月期及び同年度 10 月期に健康診断を受診した学生
並びに新たに放射線を取り扱う学生

②　健康診断実施方法

放射線取扱者健康診断問診票による皮膚・眼及び被爆状況等の問診並びに血液検査

5）平成 29 年度　5 月以降入学学生の健康診断

11 月 21 日実施

検査項目	受検者数	異常あり	備　考
	人	人	甲状腺腫大 1 人
			整形外科 2 人、婦人科 1 人
身長･体重･血圧･内科	182	5	睡眠障害 1 人
			気管右方圧排　1 人
			（上記甲状腺腫大と同一人物）
胸部 X 線撮影	180	1	→甲状腺癌　熊大病院で治療
			再検査で異常なし 4 人
			〃　経過観察 1 人
尿検査	179	7	未受検 2 人

6）平成 29 年度　体育会系学生貧血検査及び特別健康診断（希望者）

貧血検査（血液一般・血清鉄）

受検者　12 人（全員異常なし）　10 月 12 日実施

特別健康診断（内科・検尿・心電図等）

依頼なし

7）平成 29 年度　健康診断証明書発行

	発行枚数
保健センター	
日本語	365 枚
英語	7 枚
証明書自動発行機	
日本語	1,986 枚
英語	72 枚
合　計	2,430 枚

2．感染予防対策

病院実習が必要な医学部医学科・保健学科、薬学部薬学科、教育学部養護教諭養成課程において、各施設より求められた基準に基づき感染予防対策を行っている。

1）4 種ウィルス（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査及びワクチン接種

抗体検査については、希望者（全学対象）に実施。費用は、自己負担

（5 月 16 日 439 人、11 月 7 日 53 人、その他医学部・薬学部主体で実施 217 人）

ワクチン接種については、各自病院で受けるように指導

2）結核に関する検査（胸部Ｘ線）

定期健康診断時の胸部Ｘ線受検を義務化

3）インフルエンザ予防接種

医学部医学科と保健学科が、学部主体でインフルエンザワクチン接種を行う際の準備と応援。教育学部は、学部（外注）にて実施

4）B型肝炎ワクチン接種

学部学科の依頼で実施。経費は、学部又は学生負担

対　象	区　分	実施者数	備　考
医学部	前採血(H29.5.12)	119	ワクチン接種を必要としないもの 4 名
医学科	1 回目(H29.6.13)	110	外部接種 5 人
3 年	2 回目(H29.7.11)	110	
	3 回目(H29.11.7)	110	
	後採血(H29.12.12)	109	93 名に抗体（＋）
医学部	前採血(H29.4.13)	152	ワクチン接種を必要としないもの 0 名
保健学科	1 回目(H29.5.11)	151	外部接種 1 人
看護 1 年	2 回目(H29.6.8)	149	2 名 1 回で終了（1 名休学、1 名気分不
検査 3 年	3 回目(H29.10.26)	149	良により）
放射 3 年	後採血(H29.12.7)	149	140 名に抗体（＋）
教育学部	前採血(H29.5.16)	33	ワクチン接種を必要としないもの 0 名
養教 1 年	1 回目(H29.6.12)	32	1 名希望せず
	2 回目(H29.7.10)	32	
	3 回目(H29.11.27)	31	1 名副反応強いため 2 回で終了
	後採血(H30.1.15)	32	31 名に抗体（＋）
薬学部	前採血(H29.4.17)	58	ワクチン接種を必要としないもの 1 名
薬学科 4 年	1 回目(H29.12.13)	57	
	2 回目(H30.1.10)	57	
	3 回目(H30.5.2)	57	

注：前採血　GOT・GPT・HBs 抗原・HBs 抗体
　　後採血　HBs 抗体（定量）

5）1）～4）の指導

医学部１，２，３，４年ガイダンス時にオリエンテーション実施
入学者への感染対策内容を個別指導
対象者全員が対策完了するまで、継続的な個別指導
感染対策フローチャートの見直し

6）データ管理と感染対策証明書発行

全学の感染対策データを保健センター内サーバにて管理
平成 29 年度　感染対策証明書発行枚数　1,776 枚

３．日常受診業務（健康相談・応急処置等）

平成 29 年度　日常受診一覧

担当：副島医師、田代・本田・小林看護師

＊学生区分は、留学生を優先して集計

＊本荘地区(医学部医学科)は木・金曜、九品寺地区（医学部保健学科）は月・火・水曜、大江地区（薬学部）健康相談室は火曜午後に、看護師が在室

区分	キャンパス	内科	創傷	外傷	整形	耳鼻	皮膚	婦人	眼科	歯科	検査	その他	合計
学部生	黒髪	1,152	146	115	75	30	125	48	24	14	35	355	2,119
	本荘	32	3	0	6	0	1	4	3	0	25	376	450
	九品寺	23	4	0	6	0	0	4	0	0	19	51	107
	大江	3	0	0	0	0	0	0	0	0	9	9	21
大学院生	黒髪	114	16	3	1	4	23	3	8	2	1	34	209
	本荘	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	九品寺	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	大江	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学生	黒髪	185	17	17	22	3	30	6	17	8	27	17	349
	本荘	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3
	九品寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大江	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
職員他	黒髪	206	15	20	34	5	20	10	8	3	4	89	414
	本荘	6	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	9
	九品寺	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3	7
	大江	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小　計	黒髪	1,657	194	155	132	42	198	67	57	27	67	495	3,091
	本荘	39	4	0	7	0	4	5	3	0	25	376	463
	九品寺	25	5	0	8	0	0	4	0	0	19	54	115
	大江	4	0	0	0	0	0	0	0	0	10	9	23
合　計		1,725	203	155	147	42	202	76	60	27	121	934	3,692

４．各種相談業務

１）平成 29 年度　精神衛生相談（心とからだの悩みなんでも相談）精神科医師が担当

担当：藤瀬医師、菊池医師

	延べ数			実　数		
	男	女	計	男	女	計
学部生	341	469	810	75	74	149
院生	78	66	144	18	10	28
留学生	22	61	83	5	10	15
職員	79	61	140	21	23	44
合計	520	657	1,177	119	117	236

2）平成 29 年度　心理相談　臨床心理士が担当

担当：髙橋臨床心理士

医学部は、医学部医学科健康相談室にて、第１第３火曜日午後開室

薬学部は、薬学部Ａ棟１Ｆミーティングルームにて、毎週水曜日に開室

		延べ数			実数		
		男	女	計	男	女	計
保健センター(黒髪)	学部生	257	293	550	41	36	77
	院生	59	57	116	8	11	19
	留学生	7	37	44	3	4	7
	職員	12	3	15	4	2	6
医学部	学部生	3	17	20	2	5	7
	院生	2	0	2	2	0	2
	留学生	0	0	0	0	0	0
	職員	1	0	1	1	0	1
薬学部	学部生	21	41	62	11	8	19
	院生	2	1	3	2	1	3
	留学生	0	3	3	0	1	1
	職員	12	1	13	7	1	8

	延べ数			実数		
	男	女	計	男	女	計
心理相談合計	376	453	829	65	57	122

＊同一人物が複数のキャンパスで面談をしている場合があるため、「保健センター・医学部・薬学部の実数の合計」と「心理相談合計」の数が一致しない。

担当：教育学部高岸幸弘准教授（臨床心理士）による留学生への英語でのカウンセリング　１人（延べ 10 回）依頼

3）平成 29 年度　教育学部附属小・中学校へのスクールカウンセラー派遣

担当：髙橋臨床心理士　月３回各３時間

		延べ数			実数		
		男	女	計	男	女	計
附属小･中学校	小学生	0	2	2	0	1	1
	中学生	0	12	12	0	5	5
	保護者	2	7	9	2	6	8
	職員	0	0	0	0	0	0
	校内連携	3	15	18	3	2	5
	外部連携	0	0	0	0	0	0
	合計	5	36	41	5	14	19

4）平成 29 年度　特別健康相談

担当：学校医（整形外科：中村英一医師、婦人科：伊藤史子医師）

各学校医に年６回各２時間　　（延べ数）

	学　生	職　員	合　計
整形外科	8	5	13
婦人科	11	3	14

5）平成 29 年度　性に関する相談

担当：田代・本田看護師・・・・延べ数合計　7 人

5．産業医活動

本学 4 カ所の事業場のうち、３事業場を保健センター医師が担当しており、藤瀬医師が黒髪事業場、副島医師が本荘大江事業場、菊池医師が京町事業場を担当

【主な産業医活動】

衛生管理者と共に職場巡視を行い作業環境改善のなどのための助言指導（各 12 回/年）

安全衛生委員会に出席・助言指導

職場健診の判定、放射線取扱者に対する被爆判定・指導

特殊健診（有機物など有害物質取扱者）の判定、特定業務健診（有害業務従事者）の判定

救急蘇生・ＡＥＤ講習会　講師：副島医師（各事業所にて、計５回開催）

産業医面接・健康相談（下表の通り）

（人：延べ人数）

	担当医	黒髪	京町	本荘・大江	附属病院
長時間労働者面接指導（フォロー面接及びストレスチェックを含む）	藤瀬医師	40	0	0	0
	副島医師	0	0	5	0
	菊池医師	0	0	0	0
職場復帰支援等に関する産業医面接（関係者打合せ・就業に関する相談を含む）	藤瀬医師	49	0	5	0
	副島医師	0	0	4	0
	菊池医師	0	0	0	0
健康相談	藤瀬医師	0	0	0	0
	副島医師	0	0	7	0
	菊池医師	0	0	0	0
合　計		89	0	21	0

6．その他

1）講義

教育学部養護教諭養成課程　「精神保健学」前期 14 回　藤瀬医師・菊池医師

新入生 START UP 講座 前期 7 回　副島医師

医学教育部（修士・博士）分担講義　前期計 5 回　副島医師

２）出版物

熊本大学保健センターだより（年１回発行）平成 30 年 3 月発行

熊本大学保健センター年報（平成 28・29 年度分）平成 30 年 7 月発行予定

３）学内講演会・研修会への講師派遣

理学部　新入生ガイダンスにおける講話（4/5）副島医師

薬学部ＦＤ研修会　講演

「学生のメンタルヘルス及び対応について」（5/24）藤瀬医師・髙橋臨床心理士

附属中学校　第 2 回学校保健委員会参加（3/1）髙橋臨床心理士

４）学生支援室・学生相談室との連携

藤瀬医師が学生支援室長、副島医師が同副室長を兼務しており、菊池医師を含めた 3 名が学生支援室運営委員会委員である。

学生支援室・学生相談室との専門職ミーティング（月１回１時間）に、藤瀬医師・菊池医師・高橋臨床心理士が参加

学生支援室に副島医師が週１回１時間訪問し、助言指導

合理的配慮検討会アドバイザー（随時）

学生支援検討会アドバイザー（２回）

学生支援室主催の「大学生のためのソーシャルスキルトレーニング（SST)」

前期後期計 12 回に、高橋臨床心理士が参加協力

学生相談室主催のメンタルヘルス学習会計 4 回に菊池医師が参加協力

５）学生定期健康診断時に実施する疲労蓄積度調査及び調査にもとづく学生面談

疲労蓄積度調査回答 6.139 人のうち、メンタル不調及び相談希望学生 1.290 人へ封書または電話連絡を行い、精神科医師・臨床心理士との面談を促した。面談に際しては、本学附属病院精神科医師と臨床心理士の計 5 名（計 30 時間）に応援を依頼した。

全体の来談者数 69 人（既に通所中 40 人含む）

６）休日の救護対応

オープンキャンパス、大学祭、入試、職員採用試験、工学部 120 周年記念事業

７）職員に対するインフルエンザワクチン接種

労務課の依頼で、実施。ワクチン代は、自己負担

12 月 6 日、12 月 12 日、12 月 18 日 合計 1,199 人

８）保健センターホームページのリニューアル　平成 29 年 9 月公開

英語版ホームページ制作　平成 30 年 3 月公開

45号　平成30年3月31日発行

・Kumamoto University Health Care Center・



熊本大学 保健センターだより

保健センターのホームページ　http://hcc.kumamoto-u.ac.jp/
保健センターへの直通電話　　096-342-2164

「五月病」について

保健センター長　藤瀬昇

この季節、新入生も在学生の皆さんも新たな気持ちで新年度を迎えていることと思います。熊本大学の新入生のおよそ3分の2は県外出身であり、とくに新入生にとっては初めての一人暮らしという人が多いはずです。親元を離れた開放感の一方で、生活の細々としたところが意外に大変に感じたりしているかも知れません。新生活への期待や高揚感が落ち着いてくるゴールデンウィークを過ぎた頃から出てくるさまざまな心身の不調、それが「五月病」です。「五月病」を医学的に診断すると、適応障害という病名になります。ストレス関連障害の1つで、個人が環境に上手く適応できないときに出てくる情緒的反応です。不安、抑うつ、イライラが代表的な症状で、ストレス因子としては、経済的問題、人間関係の問題、身体疾患などが多く、ストレス因子の始まりから3ヶ月以内に発症することが多いと言われています。



（全国健康保険協会ホームページより）

適応障害がこじれると、うつ病になってしまうこともあります。逆に、うつ病からの回復過程として

適応障害を経て良くなっていく場合もあります。うつ病にまでなってしまった場合は、一に休養、二に薬ということで一定期間の療養が必要になります。ですので、適応障害が判明した時点で、うつ病にならないように対処することが重要です。適応障害は個人と環境の相互作用です。個人に対しては、頭痛があれば頭痛薬、食欲不振であれば胃薬、寝付きが悪くなっていれば軽い睡眠導入剤、イライラが強ければ安定剤といったふうに症状に応じた投薬を行います。ただし、これらはあくまで対症療法であり、根本的な治療ではありません。個人のストレス耐性を強化するやり方（カウンセリングなど）もありますが、かなり時間がかかります。そこで、最も効果的な働き掛けが環境調整です。環境の中にはさまざまな事柄が含まれ、可能な範囲で調整を行います。もちろん環境要因には教員も含まれ、中には教員のほうがかなりのストレスを抱えている場合もあります。繰り返しになりますが、適応障害は個人と環境の相互作用なので、どちらか一方だけでなく、双方に働きかけるのが効果的です。ストレス因子が終結すれば、6 ヶ月以上症状が続くことはありません。この点、熊本大学には、修学支援を行う学生支援室、キャンパスライフ全般に関する相談を受付けている学生相談室があります。必要に応じて保健センターとも連携可能で、さまざまな環境調整を行っています。学生指導等でお困りの教員向けには「学生支援検討会」というのがあり、キャンパスソーシャルワーカー、臨床心理士、精神科医の専門職が相談に応じ、解決の糸口を見出すためのお手伝いをしています。担当窓口は前述の学生相談室です。

五月病の予防としては、規則正しい生活（睡眠と食事）を心掛け、自分なりのストレス解消法をみつけることです。高校生のときの生活を参考にするのも良いでしょう。それでも症状が長引く場合は、遠慮なく保健センターに相談してください。最後に、保健センターの相談窓口を案内しておきます。詳しい業務内容についてはホームページ（http://hcc.kumamoto-u.ac.jp/）をご覧ください。今後も学生及び教職員の皆さんの健康増進のお役に立てるよう活動していきたいと思います。

各地区健康相談等の利用案内

	場所	時間帯	連絡先
保健センター	黒髪北キャンパス	平日 8:30～17:15	096-342-2164
医学部健康相談室	保健学科教務隣	月・火 9:00～16:00 水 9:00～12:00	096-373-5004
	医学教育図書棟 4F	水 13:00～16:00 木・金 9:00～16:00	
医学部こころの健康相談室	医学教育図書棟 4F	第 1・3 火曜 14:00～17:00（予約制）	096-342-2164
薬学部健康相談室	育薬フロンティアセンター	毎週火曜 13:00～17:15	内線 4753
薬学部こころの健康相談室	A 棟 1 階ミーティングルーム（事務室隣）	毎週水曜 14:00～17:00（予約制）	096-342-2164

インフルエンザワクチンの予防接種について

保健センター准教授　副島弘文

最近は種々の感染症の流行がみられていますので、春にはふさわしくないかもしれませんがインフルエンザワクチンの予防接種について記したいと思います。

インフルエンザワクチンの予防接種の有効性は世界的に認められています。我が国においても高齢者の発病防止や特に重症化防止に有効であることが確認されています。65 歳以上の高齢者に対して行った調査では、予防接種を受けないでインフルエンザにかかった人の 34%～55%は、予防接種を受けていればインフルエンザにかからずに済んだこと、また、予防接種を受けないでインフルエンザにかかって死亡した人の 82%は、予防接種を受けていれば死亡せずに済んだことが報告されています。

インフルエンザウイルスには様々な型があることが知られていますが、流行する型が毎年異なります。世界での流行状況からどの型が流行するのかを世界保健機関（WHO）が予測し、それに基づいて日本の研究機関でも次の冬に流行するインフルエンザの型を検討してワクチンの型を決定します。今年のワクチンの型が決まってから、ワクチンの製造が始まります。インフルエンザウイルスを卵に投与して増殖させ、増殖したウイルスを処理することで感染力をなくさせると、やがてウイルスは死滅します。それを処理して、ウイルスの殻の部分だけにしたものがワクチンです。

インフルエンザワクチンを体に接種しておくと、免疫細胞がウイルスの殻の部分を認識した場合の反応性が高まります。次に、本物のインフルエンザウイルスが身体に侵入してきたときに、一気にインフルエンザウイルスを攻撃することができます。そのため予防接種を受けた人はインフルエンザウイルスが体に入ってきても、症状は軽症ですむことも多いです。

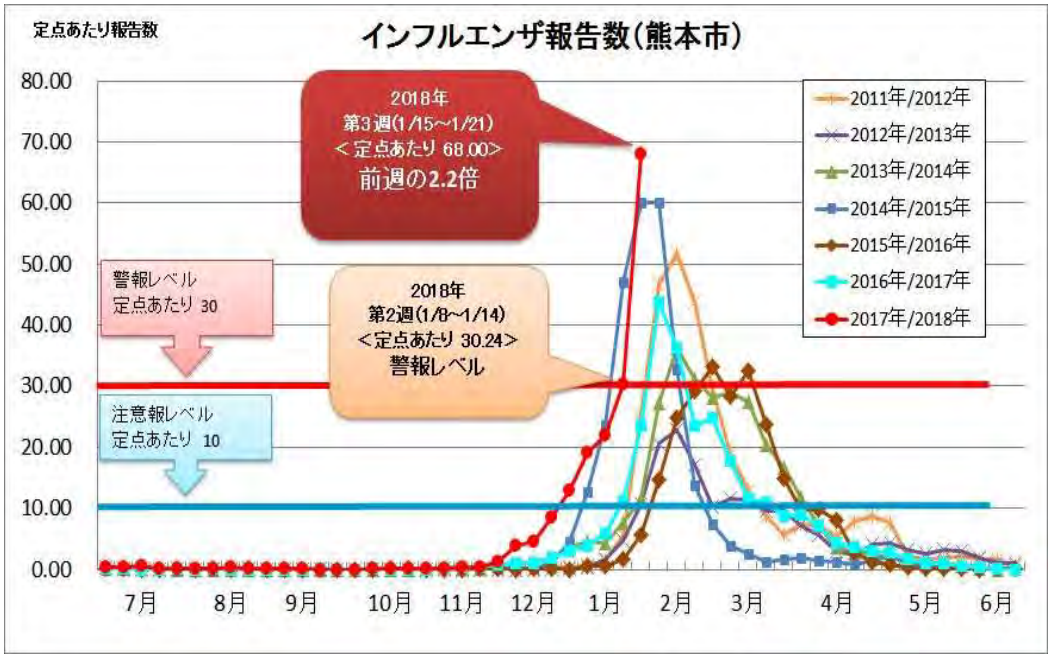
インフルエンザは毎年、A型とB型が流行しています。そのうちA型は、H1N1 とH3N2 の 2 タイプに固定されていますが、B型は、山形系統とビクトリア系統の 2 タイプが混合流行していることが続いていました。このことから、2013 年よりこの 4 つのタイプすべてをカバーする 4 価ワクチンを WHO では推奨するようになりました。日本では 2015 年から 4 価ワクチンに切り替わりました。

免疫細胞がウイルスを認識して免疫反応の準備体制が整うのに 2 週間ほどかかります。また、その効果も 4 カ月ほどで、その後は効果が薄れてしまいます。副作用の強い人はおすすめできませんが、そうでない人は 11 月から 12 月上旬に予防接種を検討してください。

2017-2018 シーズンは熊本市では例年より早期から流行が始まり、十数年ぶりの大流行の可能性があるようです。また、B 型が多く、A 型の 4 倍になっているという特徴があります（2018 年 1 月末現在）。

熊本市ホームページから

http://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=4156



こころの健康相談室より

保健センター臨床心理士　髙橋直美

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

大学では、これまでの学校生活とは違うことがたくさんあるかと思います。保健センターも新しいものの一つではないでしょうか。熊本大学では、保健センターの中に「こころと身体の悩みなんでも相談室」というものを設けています。私はそこで、臨床心理士として働き、主にカウンセリングといって相談を受けてお話を聴くお仕事をしています。メインは、黒髪北キャンパスの保健センターにて行っていますが、時々、医学部と薬学部のキャンパスでも出張開室しています。熊本大学の学生さんであれば誰でも利用できますので、お気軽に保健センターまでお問合せください。相談は予約制となっています。

≪カウンセリングＱ＆Ａ≫

カウンセリングに関してよくされる質問をまとめてみました。

Ｑ１：私以外にも相談に来る人はいますか？

Ａ１：たくさんいらっしゃいます。年間 200～300 人の方が、保健センターでの精神科医の面談及び臨床心理士のカウンセリングに来られています。「こんなにいるんですか？」と驚かれる方も、「私だけが悩んでいるんじゃないんだ」と安心される方も多いです。

Ｑ２：（こころと身体の悩みについて）こんなことで相談にきていいんでしょうか？

Ａ２：大丈夫です。ちょっとしたことでも構いませんので、気軽にご利用ください。一人で悩みを抱えていると、そのことが頭の中をぐるぐる回ってしまって、どんどん気が滅入ってくる…ということもあります。そんな時は、まず誰かに話をすることができると、考えや気持ちも整理されていきます。身近な方には言いにくいこともあるかもしれません。そんな時は特に、保健センターをご利用いただければと思います。お話された秘密は守られます。

Ｑ３：どこに相談したらいいかわからない。

Ａ３：どこに相談したらいいかも一緒に考えることができます。熊本大学の中には、保健センターの他に、学生相談室や学生支援室、ハラスメント相談員など様々な相談を受ける場所があります。自分の抱えている悩みを解決するためにどこに相談に行くべきかを見極めるのは、実はとても難しいことだと思います。最初に相談に行く場所はどこでも大丈夫です。相談に行った先で「その問題だったらここに行った方があなたにとってよいだろう」と一緒に考えることができるはずです。

みなさん一人ひとりが違うように、考えていることも、悩んでいることも、苦しいことも様々です。悩みや苦しみは誰かと比較するものではなく、あなたにとってどうであるかが大事になります。一人で抱えるのが大変な時には、一緒に考えさせてください。困った時に、保健センターで相談ができることを思い出してもらえたら嬉しいです。

保健センター業績

【原著論文】

Ogawa H, Soejima H, Matsui K, Kim-Mitsuyama S, Yasuda O, Node K, Yamamuro M, Yamamoto E, Kataoka K, Jinnouchi H, Sekigami T; ATTEMPT-CVD investigators. A trial of telmisartan prevention of cardiovascular diseases (ATTEMPT-CVD): Biomarker study. Eur J Prev Cardiol. 23(9):913-21, 2016

Okada S, Morimoto T, Ogawa H, Sakuma M, Soejima H, Nakayama M, Jinnouchi H, Waki M, Akai Y, Ishii H, Saito Y; investigators for the Japanese Primary Prevention of Atherosclerosis with Aspirin for Diabetes (JPAD) trial. Is Long-Term Low-Dose Aspirin Therapy Associated with Renal Dysfunction in Patients with Type 2 Diabetes? JPAD2 Cohort Study. PLoS One. 11(1):e0147635, 2016

Hokimoto S, Soejima H, Kojima S, Kaikita K, Yamamuro M, Izumiya Y, Tsujita K, Yamamoto E, Tanaka T, Sugamura K, Arima Y, Sakamoto K, Akasaka T, Tabata N, Sueta D, Miyoshi I, Usami M, Ogawa H. Distribution of Ankle-Brachial Index among Inpatients with Cardiovascular Disease: Analysis Using the Kumamoto University Hospital Medical Database. Ann Vasc Dis. 9(1):22-9, 2016

Ishii M, Kaikita K, Sato K, Yamanaga K, Miyazaki T, Akasaka T, Tabata N, Arima Y, Sueta D, Sakamoto K, Yamamoto E, Tsujita K, Yamamuro M, Kojima S, Soejima H, Hokimoto S, Matsui K, Ogawa H. Impact of Statin Therapy on Clinical Outcome in Patients With Coronary Spasm. J Am Heart Assoc. May 20;5(5), 2016

Ishii M, Kaikita K, Sato K, Yamanaga K, Miyazaki T, Akasaka T, Tabata N, Arima Y, Sueta D, Sakamoto K, Yamamoto E, Tsujita K, Yamamuro M, Kojima S, Soejima H, Hokimoto S, Matsui K, Ogawa H. Impact of aspirin on the prognosis in patients with coronary spasm without significant atherosclerotic stenosis. Int J Cardiol. 220:328-32, 2016

Kojima S, Kojima S, Hifumi A, Soejima H, Ogawa H. Therapeutic strategy for efficient reduction of serum uric acid levels with allopurinol versus benzbromarone in hyperuricemic patients with essential hypertension - A randomized crossover study (terao study). Int J Cardiol.224:437-439. 2016

Ishii M, Kaikita K, Sato K, Yamanaga K, Miyazaki T, Akasaka T, Tabata N, Arima Y, Sueta D, Sakamoto K, Yamamoto E, Tsujita K, Yamamuro M, Kojima S, Soejima H, Hokimoto S, Matsui K, Ogawa H. Changes in the risk factors for coronary spasm. Int J Cardiol Heart Vasc. 12:85-87, 2016

Saito Y, Okada S, Ogawa H, Soejima H, Sakuma M, Nakayama M, Doi N, Jinnouchi H, Waki M, Masuda I, Morimoto T; JPAD Trial Investigators. Low-Dose Aspirin for Primary Prevention of Cardiovascular Events in Patients With Type 2 Diabetes Mellitus: 10-Year Follow-Up of a Randomized Controlled Trial. Circulation. 135(7):659-670, 2017

Kim-Mitsuyama S, Soejima H, Yasuda O, Node K, Jinnouchi H, Yamamoto E, Sekigami T, Ogawa H, Matsui K. Cardiovascular and renal protective role of angiotensin blockade in hypertension with advanced CKD: a subgroup analysis of ATTEMPT-CVD randomized trial. Sci Rep. 8(1):3150, 2018

Koyama A, Hashimoto M, Tanaka H, Fujise N, Matsushita M, Miyagawa Y, Hatada Y, Fukuhara R, Hasegawa N, Todani S, Matsukuma K, Kawano M, Ikeda M. Malnutrition in Alzheimer's disease, dementia with Lewy bodies and frontotemporal lobar degeneration: comparison using serum albumin, total protein and hemoglobin level. PLOS ONE 11(6):e0157053, 2016

Fujise N, Abe Y, Fukunaga R, Nakagawa Y, Nishi Y, Koyama A, Ikeda M. Comparisons of prevalence and related factors of depression in middle-aged adults between urban and rural populations in Japan. J Affect Disord 190: 772-776, 2016

Campbell K E, Dennerstein L, Tacey M, Fujise N, Ikeda M, Szoeke C. A comparison of Geriatric Depression Scale scores in older Australian and Japanese women. Epidemiol Psychiatr Sci 8: 1-9, 2017

Koyama A, Matsushita M, Hashimoto M, Fujise N, Ishikawa T, Tanaka H, Hatada Y, Miyagawa Y, Hotta M, Ikeda M. Mental health among younger and older caregivers of dementia patients. Psychogeriatrics 17: 108-114, 2017

Kajiya, T., Sugawara, H., Kajio, Y., Morieda, S., Tanaka, H., Jono, T., Fujise, N., Hashimoto, M. Effect of lamotrigine in the treatment of bipolar depression with psychotic features. Annals of General Psychiatry Aug. 9;16:31, 2017

藤瀬昇、松下正輝、小山明日香、田代邦子、本田るみ子、奥田清香、井上寛子、今崎幸子、八谷由香、菊池陽子、城野匡、橋本衛、副島弘文　平成28年熊本地震による学生の精神的健康および睡眠への影響とそれらに関連する要因についての検討. CAMPUS HEALTH 54(1):366-367, 2017

田代邦子、副島弘文、本田るみ子、小林歩美、藤瀬昇　保健センター利用満足度調査からみえる新たな課題. CAMPUS HEALTH 54(1):200-201, 2017

【総説、著書】

副島弘文　小川久雄　糖尿病患者は心血管事故の高リスクですが、抗血小板療法はどのようにしたらよいでしょうか？　編集　伊藤浩　綿田裕孝　心血管事故を予防するための糖尿病治療戦略、pp220-223、文光堂、東京都　2016

副島弘文､小川久雄　RAS 阻害薬　4.薬物療法　VI 冠動脈疾患の治療　最新冠動脈疾患(上)　日本臨床増刊号　　pp586-590、日本臨床社、大阪市　2016

副島弘文、小川久雄　糖尿病患者における心不全マネジメント　月刊糖尿病;8(7):57-65, 2016

副島弘文、小川久雄　脂質異常患者の抗血小板療法　そうだったんだ！脂質異常症　伊藤浩編集　　pp240-243、文光堂、東京都　2016

副島弘文　糖尿病患者の高血圧治療：日本のエビデンス　1）　JPAD 試験サブ解析　血圧;23(10):39-43, 2016

副島弘文　循環器病（心血管疾患）の一次予防　外来診療必読エビデンス　Medicina:54(6):1007-1010, 2017

西良知、藤瀬昇、池田学. 認知症に伴う長引く抑うつ症状への対応. 精神科臨床サービス 16:237-243, 2016

藤瀬昇、小山明日香、向坂香織、西良知、阿部恭久、福永竜太、池田学. 熊本県球磨郡あさぎり町における高齢者のうつ病予防のための地域介入. こころの健康 31:35-40, 2016

藤瀬昇、小山明日香、向坂香織、西良知、阿部恭久、福永竜太、池田学. 熊本県球磨郡あさぎり町における高齢者のうつ病予防のための地域介入. こころの健康 31:35-40, 2016

藤瀬昇　高齢者のうつ病　メンタルヘルスくまもとⅢ　‘16～’17 年版　p125-130, 2017

【学会発表】

（国際）

Nishi Y, Koyama A, Abe Y, Fukunaga R, Mukouzaka K, Murakami R, Fujise N, Ikeda M. Characteristics of elderly residents required follow-up by public health nurses with depression screening in a rural area in Japan. IPA Asian regional Meeting, Taiwan, December 12, 2016

Soejima H, Morimoto T, Okada S, Sakuma M, Nakayama M, Jinnouchi H, Sugiyama S, Waki M, Saito Y, Ogawa H. 44 % of Patients with Myocardial Infarction are Silent

Manifestation in Diabetics. America Heart Association Scientific Sessions 2016. New Orleans, Louisiana, USA, November 12-16, 2016

（国内）

副島弘文　熊本地震を振り返って. 第 46 回九州地方部会保健管理協議会　特別講演 II. ニューウェルシティー宮崎　平成 28 年 8 月 25 日

藤瀬昇、松下正輝、小山明日香、田代邦子、本田るみ子、奥田清香、井上寛子、今崎幸子、八谷由香、菊池陽子、城野匡、橋本衛、副島弘文 平成 28 年熊本地震による大学生の精神面および睡眠への影響と、それらに関連する要因についての検討. 第 46 回九州地区大学保健管理研究協議会　特別講演Ⅱ. ニューウェルシティ宮崎　平成 28 年 8 月 25 日

副島弘文、森本剛、岡田定規、中山雅文、作間未織、上村史朗、金内雅夫、土肥直文、陣内秀昭、杉山正悟、脇昌子、斎藤能彦、小川久雄 糖尿病患者における症候性および無症候性心筋梗塞一次予防に関する因子の検討. 第 64 回日本心臓病学会学術集会　東京国際フォーラム 展示ホール B2 階 ホール E (1)　平成 28 年 9 月 23 日

田代邦子、副島弘文、本田るみ子、小林歩美、藤瀬昇　保健センター利用満足度調査からみえる新たな課題.　第 54 回全国大学保健管理研究会　大阪国際会議場　平成 28 年 10 月 5 日

松下正輝、藤瀬昇、小山明日香、田代邦子、本田るみ子、奥田清香、井上寛子、今崎幸子、八谷由香、菊池陽子、城野匡、橋本衛、副島弘文 熊本地震による大学生の精神面および睡眠への影響と関連する要因についての検討. 第 54 回全国大学保健管理研究会　大阪国際会議場　平成 28 年 10 月 5 日

藤瀬昇　高齢者の抑うつとうつ病の医療連携. 第 95 回熊本精神神経学会　ANA クラウンプラザホテル熊本ニュースカイ　平成 29 年 2 月 25 日

Hirofumi Soejima, Takeshi Morimoto, Sadanori Okada, Masafumi Nakayama, Mio Sakuma, Naofumi Doi, Hideaki Jinnouchi, Seigo Sugiyama, Masako Waki, Yoshihiko Saito, Hisao Ogawa. Does good blood pressure control inhibit bleeding complications during low-dose aspirin therapy in diabetic patients?　第 81 回日本循環器学会学術集会　金沢市教育プラザ此花　特設テント　平成 29 年 3 月 18 日

藤瀬昇、遊亀誠二　森田療法と熊本との関係について　第 96 回熊本精神神経学会　熊本　平成 29 年 7 月 22 日　ANA クラウンプラザホテル熊本ニュースカイ

副島弘文、安田修、中山秀樹、辻田賢一　歯周病菌はひと動脈内に認められる. 第 65 会日本心臓病学会学術集会　大阪国際会議場 3F イベントホール　平成 29 年 9 月 29 日

藤瀬昇　森田療法と五高（会長講演）．第 35 回日本森田療法学会　熊本大学工学部百周年記念館　平成 29 年 11 月 11 日

副島弘文　「健康教育・その他 1」ポスターセッション座長　第 55 回全国大学保健管理研究集会　沖縄コンベンションセンター　平成 29 年 11 月 29 日

藤瀬昇　高齢者のうつ病予防のための地域介入．第 21 回日本精神保健・予防学会　沖縄県市町村自治会館　平成 29 年 12 月 9 日

Hirofumi Soejima, Takeshi Morimoto, Sadanori Okada, Mio Sakuma, Masafumi Nakayama, Hideaki Jinnouchi, Naofumi Doi, Seigo Sugiyama, Izuru Masuda, Masako Waki, Yoshihiko Saito, Hisao Ogawa. New emergence of proteinuria in diabetic patients is related continuous blood pressure control. Sympojum21 Pathophysiology and New Treatment of Cardiovascular Complications of Diabetes Mellitus. 第 82 回日本循環器学会学術集会　リーガロイヤルホテル大阪　平成 30 年 3 月 25 日

副島弘文　ポスターセッション 070「Diabetes」座長．大阪国際会議場　平成 30 年 3 月 25 日

【学会主催】
第 35 回日本森田療法学会　工学部百周年記念館　平成 29 年 11 月 11・12 日

【学内・外講演会など】
（学内）
藤瀬　昇
メンタルヘルスの不調について．平成 28 年度メンタルヘルス講演会　全学教養棟黒髪北 E１　1 階多目的会議室　平成 28 年 8 月 9 日

職場のメンタルヘルス．熊本大学中堅職員へのメンタルヘルス（セルフケア）講会事務局 1 階大会議室　平成 28 年 10 月 28 日

メンタルヘルス支援について．平成 29 年度労働安全衛生講演会　工学部 2 号館 2 階 223 教室　平成 29 年 11 月 27 日

熊本大学におけるストレスチェックの結果について．　平成 29 年度熊本大学男女共同参画推進フォーラム（話題提供）　くすの木会館レセプションルーム　平成 30 年 3 月 2 日

髙橋直美
震災後 1 年を迎えて、そして今後の対応について．教育学部附属中学校　第 1 回学校保健委員会講話　平成 29 年 9 月 28 日

（学外）
藤瀬　昇
早期認知症と高齢者のうつ病．第58回肥後医育塾・第17回日本早期認知症学会学術大会県民公開講座「認知症～上手な予防、上手な介護～」鶴屋ホール　H28年9月18日

高齢者のうつと認知症との関連について．実地医家のための認知症地域連携の会．ホテルマリノアリゾート福岡．H28年10月19日

熊本県の自殺好発地域における高齢者うつの実態調査．症状・疾患別シリーズ「うつ病と自殺予防」　国立病院機構熊本医療センター/地域医療研修センター　H28年11月5日

職場のメンタルヘルス．熊本県県北広域本部鹿本地域振興局3階大会議室．H28年11月11日

緩和ケア研修会講師およびファシリテーター.熊本市民病院　熊本市役所4階モニター室．H28年11月20日

職場のメンタルヘルス研修会．公益社団法人熊本県精神保健福祉協会事務局　くまもと県民交流会館パレア９階会議室１　H28年11月29日

精神障がいのある学生の支援　in　熊本大学．熊本学園大学本館4階第1会議室　H28年12月5日

災害後のメンタルヘルス不調について．平成28年度熊本県かかりつけ医うつ病対応力向上研修（熊本県医師会）．テルウェル熊本ビル　1階会議室　H29年1月21日

緩和ケア研修会講師およびファシリテーター．熊本再春荘病院多目的ホール．熊本再春荘病院　H29年1月29日

平成28年度あさぎり町こころの健康アンケート調査報告．　あさぎり町医療連絡会　あさぎり町「すなお」　平成29年2月14日

高齢者の抑うつと認知症について．鹿本医師会認知症講演会鹿本医師会館講堂．H29年2月23日

高齢者の抑うつについて．平成28年度佐賀県かかりつけ医うつ病対応力向上研修（佐賀県医師会）　H29年3月14日　佐賀県医師会成人病予防センター３階講堂

Elderly Depression．JAICAセミナー　国立病院機構熊本医療センター2階地域医療研修センター　H29年3月31日

職場のメンタルヘルス（管理職向け）．熊本県庁新館８階職員研修室　H29年5月25日

緩和ケア研修会講師およびファシリテーター　済生会熊本病院　済生会熊本病院外来がん治療センター4階コンベンションホール　H29年5月28日

認知症とうつ～認知症診療におけるうつ状態の鑑別の重要性．高知大学基幹型認知症疾患センター講演会　高知大学医学部研究棟第一会議室　H29年8月11日

職場のメンタルヘルス研修会　公益社団法人熊本県精神保健福祉協会事務局　くまもと県民交流会館パレア9階会議室1　H29年8月29日

うつ病の診断と治療　平成29年度熊本県かかりつけ医うつ病対応力向上研修（熊本県医師会）　熊本県医師会館　H30年1月13日

脳卒中後の抑うつとメンタルケアについて　八代北部地域医療センター　平成30年2月27日

平成29年度あさぎり町こころの健康アンケート調査報告．　あさぎり町医療連絡会　あさぎり町「すなお」　平成30年3月13日

Elderly Depression. JAICAセミナー　国立病院機構熊本医療センター2階地域医療研修センター　H30年3月16日

【報道・その他】

藤瀬昇　認知症介護者　抑うつ状態が2倍以上．クマロク！（NHK熊本）平成29年5月26日

【学内・外各種委員会活動】

藤瀬　昇

（学内）

保健センター運営委員会（委員長）、（障がい）学生支援室運営委員会（委員長）、学生委員会、黒髪事業場安全衛生委員会（副委員長）、中央安全衛生委員会、環境安全センター運営委員会、遺伝子組換え生物等第二種使用等安全委員会、放射線障害防止委員会、附属病院神経精神科行動制限最小化委員会、医学教育分野別評価準備委員会（医学科）

（学外）

熊本地方労災委員、熊本地方裁判所専門委員、あさぎり町役場産業医、熊本県精神保健福祉協会公益事業企画推進委員、九州看護福祉大学非常勤講師、熊本県精神科協会学術研修委員、熊本地震被災者支援くらしとこころの悩みの相談会（包括相談会）（H28年度）

副島弘文

保健センター運営委員会、本荘・大江事業場安全衛生委員会、学生支援室運営委員会、中央

安全衛生委員会、放射線障害防止委員会、新入生スタートアップ講座委員会、黒髪事業場安全衛生委員会（H28 年度）、環境安全センター運営委員会（H28 年度）

菊池陽子
（学内）
保健センター運営委員会、学生支援室運営委員会、京町事業場安全衛生委員会、中央安全衛生委員会、ハラスメント相談員
（学外）
熊本県福祉総合相談所非常勤職員